



# 児童の学びを支援する「学習コーナー」

今号では、校内研究テーマ「『分かる』『できる』『深める』がある授業づくり」に向けて児童の学びを支援する手立ての一つである、「学習コーナー」の具体的な取組について紹介します。

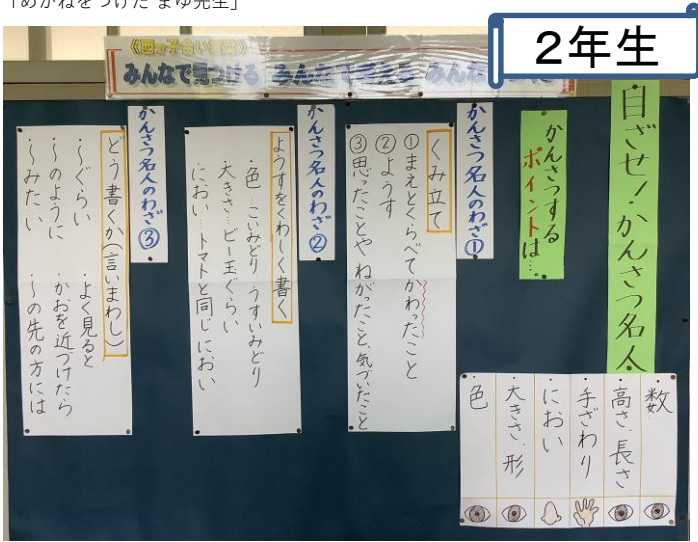
## 学習コーナー：《西っ子合い言葉》「みんなで見つける みんなで考える みんなでつくる」



湊城西小学校2年生作 「めがねをつけたまゆ先生」

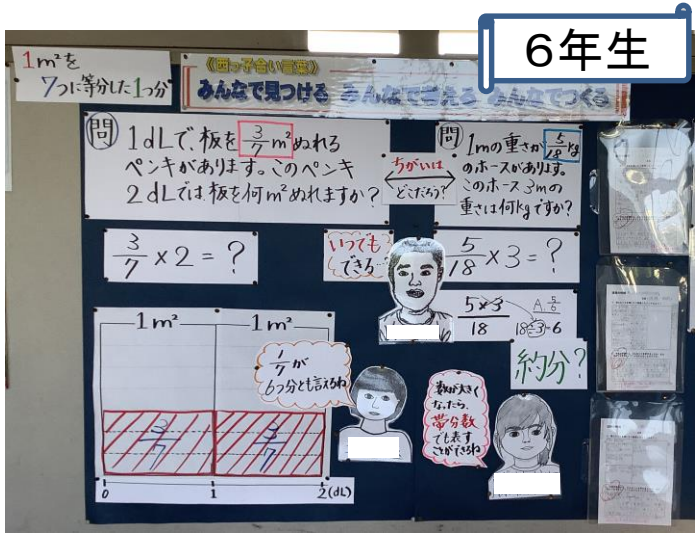
4月の職員会議で、教室の正面、背面、側面の掲示について共通理解をしています。特別支援の視点からも、どの教室でも同じような環境を整えるようにしています。  
側面の学習コーナーは、「みんなで見つける みんなで考える みんなでつくる」を合い言葉に、場所や題、道徳に関する掲示を常にするのは学校で統一していますが、教科や何を掲示するかは各担任に任せています。学校全体で、授業中に子どもたちが活用できる学習コーナーを目指しています。

教室環境担当：2年2組担任 赤塚 麻由 教諭



2年生

国語科の学習についての掲示です。観察のポイントや観察文の書き方等が示してあります。



6年生

算数科の学習についての掲示です。授業中の児童の発言の中から、ポイントとなる言葉を拾い、掲示しています。



他の学年では、計算の手順や文学的文章(物語文)のポイントがまとめてあったり、自主学習ノートのコピーが貼られていたりするなど、学年やクラスの児童の実態に合わせたコーナーとなっていて、児童の主体的な学びを支えています。

授業の「足跡」を残すことに気を付けて掲示しています。今回から、子どもたちが友達の発言を思い出せるように、自画像に吹き出しをつけるようにしてみました。授業の中で「〇〇さんが言ったやり方だ。」「今日は〇〇さんの方法で挑戦してみよう。」という声が自然と出てくるようになりました。  
「みんなで見つける みんなで考える みんなでつくる」の言葉のように、子どもたちが一人で学習しているのではなく、6年2組みんなで学習していることを感じることができると感じています。



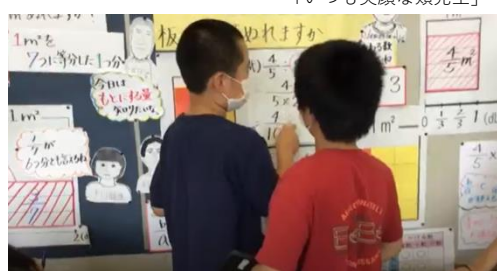
湊城西小学校6年生作 「いつも笑顔な類先生」

6年2組担任 伊藤 類 教諭

### ～難波指導教諭のつぶやき～



各教室では授業中に、学習コーナーを手掛かりに子どもたちが既習事項とのつながりを考えたり、計算の手順や言葉の意味を確認したり、他教科との関連を考えたりする主体的に学ぶ姿が見られています。



授業中に、学習コーナーの前で話し合いをする6年生